

第2回 日本医療安全推進学会 学術総会

協力する力。描く未来。

会期

2025年9月27日(土)～28日(日)

会場

東京大学本郷キャンパス/オンデマンド配信

共同総会長

中村 京太 (横浜市立大学附属市民総合医療センター
医療の質・安全管理部、会長代表)

田仲 浩平 (東京工科大学医療保健学部臨床工学科)

近藤 匡慶 (日本医科大学多摩永山病院薬剤部)

(対象者) 医療安全の推進に関心のある方。

医科医療安全、歯科医療安全、医薬品安全、医療機器安全、看護安全、リスクマネジメント、品質管理、
ヒューマンファクターと安全工学、リスクコミュニケーション、臨床コーチング、法行政学、医療経済学、医療経営学、
情報科学、行動科学、認知科学、疫学・統計、心理学、行動学研究者、病院経営者、病院長、医療行政担当者、
総括医療安全管理者、医科医療安全管理者、歯科医療安全管理者、医薬品安全管理者、医療機器安全管理者、病理医、臨床医、
薬剤師、保健師、看護師、訪問看護師などの在宅医療関係者、ケアマネージャー、社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士、
臨床工学技士、診療放射線技師、臨床検査技師、院内法務担当者、弁護士、研修医、学生、医療産業従事者、その他医療職の方

連絡先

第2回日本医療安全推進学会学術総会事務局
〒113-0033 東京都文京区本郷 4-7-12-102
(TEL) 03-6801-6922 (FAX) 03-6801-6987
(Email) 2ndjsmsp@mspo.org

JSMSP

Japan Society of Medical Safety Promotion

サテライトフレンズワークショップ 9月26日(金)

会場：東京大学医学部教育研究棟 13階 第6・7セミナー室

サテライトフレンズワークショップの目的：
日頃の取り組みや悩みについて気軽に語り合える仲間をつくる。

9月27日(土)～28日(日)の第2回日本医療安全推進学会学術総会の事前参加申込を完了した方は登録なしでご参加いただけます。

WS01：医療安全フレンズワークショップ

14:00-15:00

演者：肥田圭介(岩手医科大学 医療安全学講座、岩手医科大学附属病院 医療安全管理部)
手塚則明(東北薬科大学病院医療安全)
植竹宏之(独立行政法人国立病院機構 災害医療センター 臨床研究部長)
郷間 巖(堺市立総合医療センター 呼吸器内科・部長)
長田亮介(北信総合病院 医療安全管理室)

WS02：医薬品フレンズワークショップ

15:10-16:10

演者：今中翔一(帝京大学医学部附属病院薬剤部 係長)
高山和郎(東京大学医学部附属病院薬剤部、東京都災害薬事コーディネーター)
雨宮貴洋(帝京平成大学薬学部治療評価学ユニット)
座長：内田まやこ(九州大学病院 教授・薬剤部長)

WS03：看護フレンズワークショップ

16:20-17:20

演者：頼永 桂(福岡大学病院 看護部)
木村由紀(長崎大学病院 医療相談室 看護師長)
井上都之(岩手県立大学看護学部)
座長：井上都之(岩手県立大学看護学部)

ハンズオンセミナー ※事前登録制

医療安全管理責任者を対象とした ECMO ハンズオン：不安全ポイントの理解と対策

ハンズオンセミナーは事前登録制となりますため、下記 URL より事前登録をお願いいたします。
※別途、第 2 回日本医療安全推進学会学術総会の事前参加申込が必要です。

<https://forms.gle/CQonBYAXi6DmpEiU6>

SP03：2025年9月27日 14:00-15:00 および

SP04：2025年9月28日 11:00-12:00 の2回実施となります。

定数：各回 10 名

会場：東京大学医学部教育研究棟 13 階 第 6・7 セミナー室

主催：臨床工学分科会

実習担当者：藺田 誠（日本赤十字社愛知医療センター 名古屋第二病院 臨床工学科）

海津 達也（東京慈恵会医科大学附属柏病院 臨床工学部）

【目的】

本ハンズオンは、ECMO（体外式膜型人工肺）の導入・運用・移動という一連の過程における「不安全ポイント」を、医療安全管理責任者が実践的に把握し、具体的な対策を検討できるようにすることを目的としています。単なる知識の習得ではなく、実際のトラブルを模擬体験しながら、監視の視点、チェックリスト活用法、異常時対応の手順、チーム内での役割分担を体感的に学ぶことで、現場で即応できる安全管理能力を高めます。

【意義】

・安全文化の醸成

模擬インシデントを通じて「危険の芽」を早期に見つけ、チーム内で共有・改善する習慣を養うことで、組織全体の安全文化を高めます。

・実務への即時応用

体験した学びを院内マニュアルや安全点検プロセスに反映させることで、各施設の ECMO 運用に直結した改善を実現します。

・多職種連携の強化

医師・看護師が共に参加し、共通のリスク認識と対応策を共有することで、緊急時の指示系統や連携を強化します。

このように、本ハンズオンは現場での即戦力となる安全管理視点を養い、ECMO 運用の安全レベル向上に寄与することを狙いとしています。



目次

ご案内	1
ごあいさつ	6
会場のご案内	8
学会の趣旨・お知らせ（次年度総会）	9
日程表	10
報道関係の方へ	14
交通のご案内	15
飲食について	16
座長・演者へのお知らせとお願い	17
サテライトフレンズワークショップ 9月26日（金）	18
プログラム 9月27日（土）	19
プログラム 9月28日（日）	27
学会認定の「医療安全高度専門家」資格制度について	42
学会認定の「医薬品安全高度専門家」資格制度について	43
学会認定の「看護安全高度専門家」資格制度について	44
機関誌「医療安全推進」について	46

(オンデマンド配信期間)

期間中は繰り返し視聴可能です。

2025年10月3日(金)～2025年10月24日(金)

(視聴方法)

- ・オンデマンド配信の視聴方法等は、2025年10月3日にメールにて参加者へお届けします。
- ・オンデマンド配信は、インターネットに接続可能な機器でご視聴頂けます。

※当日のトラブルや講演者の事情により、一部ご視聴いただけない場合がございます。予めご了承ください。

(必要な機材)

- ・インターネットに接続して、音声を流すことができるPC・スマートフォン等の電子機器。
- ・PDFファイルの閲覧ソフト (例:Acrobat Reader、無料版あり)
- ・ブラウザの動作確認は Google Chrome、Microsoft Edge にて行っております。

(電子版抄録集の URL の通知)

参加費支払い済みの方へ電子メールにて事前にお知らせします。

(参加証)

開催1週間前頃に電子版参加証を電子メールにてお送りします。
来場の際、各会場入り口では参加証ないし参加費領収書をご提示ください。
会場受付にてネームホルダーをお渡しします。

(領収書)

電子版領収書を電子メールにてお送りします。
PayPalによる支払の場合、支払完了時にPayPalより自動送付されるものをお使いください。

(印字版抄録集の配布)

購入希望者に会場でお渡しします。
会期中に会場に来場されない方へは、郵送にてお送りしますので、
宛先の住所とともに事務局へお知らせください。
印字版抄録集の購入をご希望の場合は購読料(2000円)をお支払ください。

参加登録方法

1. 参加登録期間:

早期参加登録: 2025年8月29日(金)まで

通常参加登録: 2025年8月30日(土)以降

※下記 URL より登録をお願いいたします。

<https://mspo.org/jsmsp/2ndjsmsp/register/index.html>

2. 参加費 (通常参加登録)

通常参加登録 (2025/8/30~9/29)	会員(医師)	会員(医師以外)	非会員(医師)	非会員(医師以外)
会場参加費	12,000円	9,000円	16,000円	13,000円
印字版抄録集	+2000円	+2000円	+2000円	+2000円
懇親会	+5000円	+5000円	+5000円	+5000円
第3回医療安全・心理行動学会 学術総会への同時参加	+3000円	+3000円	+3000円	+3000円
オンデマンドのみ	17,000円	14,000円	21,000円	18,000円

- ・ 参加証を発行します。
- ・ PayPal による支払の場合、領収書は支払完了時に PayPal より自動送付されるものをお使いください。
- ・ 参加費には電子版抄録集を含みます。
- ・ 同時開催の【第3回医療安全心理・行動学会学術総会】と併せて両方の学術総会に参加の場合は、上記金額に加えて3千円の参加費をお支払ください。
- ・ MSPO 国際評議員は内規に則り参加費 10%割引となります。
- ・ 学部生の参加費は1000円です。学生証をご提示ください。

3. 参加費振込:

銀行振込の際、控えや明細等の記録を FAX もしくはメール添付にてお届けください。

2025年9月26日以降は会場でのお支払をお願いいたします。

(振込先口座)

銀行支店名: みずほ銀行 本郷支店 支店番号: 075

口座番号: 普通 4203420 口座名義: JS MSP 総会 (ジェイエスエムエスピーソウカイ)

4. カード決済(PayPal):

PayPal を利用したカード決済方法となります。アカウントは不要です。

下記 URL よりサイト下方よりお支払をお願いいたします。

<https://mspo.org/jsmsp/2ndjsmsp/register/index.html>

※支払項目をご選択の上、お支払ください。

※誤った項目を選択し、返金をご希望の場合は支払月末迄に事務局へご連絡ください。

第2回日本医療安全推進学会学術総会

会期： 2025年9月27日(土)～28日(日)
場所： 東京大学本郷キャンパス

【共同総会長】

中村 京太 (横浜市立大学附属市民総合医療センター医療の質・安全管理部、会長代表)
田仲 浩平 (東京工科大学医療保健学部臨床工学科)
近藤 匡慶 (日本医科大学多摩永山病院薬剤部)

【副会長】

林 香月 (名古屋市立大学医学部附属東部医療センター)

【組織委員長】

深貝 隆志 (昭和大学附属病院泌尿器科)

【プログラム委員長】

迫田 典子 (獨協医科大学 看護学部)

【実行委員長】

飛田 結実 (一般社団法人国際医療安全推進機構)

プログラム委員会： 常任理事を除く本学会の理事

組織委員会： 特別会員、代議員、その他

主催

日本医療安全推進学会

後援

【官庁】 文部科学省

【学会】 一般社団法人国際医療安全推進機構、国際医療リスクマネジメント学会、医療安全心理・行動学会、

公益社団法人日本医師会、公益社団法人日本薬剤師会、

一般社団法人日本脳神経外科学会、公益社団法人日本小児科学会、公益財団法人日本眼科学会、

公益社団法人日本麻酔科学会、一般社団法人日本農村医学会、

【専門職団体】 一般社団法人徳島県医師会、

公益社団法人岩手県看護協会、公益社団法人宮城県看護協会、公益社団法人熊本県看護協会、

一般社団法人岡山県薬剤師会、

一般社団法人 和歌山県臨床工学技士会、一般社団法人 奈良県臨床工学技士会

共同総会長 ごあいさつ

中村 京太

横浜市立大学附属市民総合医療センター医療の質・安全管理部



この度、第2回日本医療安全推進学会学術総会の共同総会長代表を務めさせていただきます中村です。私は救急科、集中治療、麻酔科などの臨床経験を経て、大学の医療安全部門に専従しております。

この学術総会を担当するにあたり、「協力する力。描く未来」をテーマにさせていただきました。医療は多職種連携が基本であり、チームが協働することは安全な医療を提供するための重大な要素となってきます。臨床現場の様々な分野からの安全の課題を検討する本学術集会では、先行的に安全を推進するために、医療全般が協働することの意義をテーマに議論したいと考えております。皆様とお会いできることを楽しみにしております。何卒よろしくお願い申し上げます。

近藤 匡慶

日本医科大学多摩永山病院 薬剤部



第2回日本医療安全推進学会学術総会に中村京太先生、田仲浩平先生の下、共同総会長を拝命し、開催させていただきます。学術総会のテーマとして「協力する力。描く未来。」を掲げております。

近年、医療の高度化・複雑化に伴って業務量の増大や医師の働き方改革により、タスク・シフト/シェアが推進され、チーム医療のあり方が変わりつつあります。チーム医療は、多種多様な医療従事者が各々の高い専門性を前提に業務を分担しつつも互いに連携・補完し合うことであり、特に薬剤師は、薬物療法に主体的に参画することで、医療安全の確保が図られます。そのような中、薬剤師は、周術期や外来診療にも業務拡大しつつあります。医薬品の安全は、薬剤師だけで完結することはなく多職種連携が必要であり、もう一度原点に振り返って、医療上特に問題となるハイリスク医薬品を中心に、リスクマネジメントのあり方について考える必要があるのではないのでしょうか。

本学術総会では医療安全について現場で抱えている安全・安心の問題について多職種ともに解決策を共有・共感し、日々高度に発達していく複雑な医療現場での安全・安心について多くの方々と一緒に考えていくことができると思っております。第2回日本医療安全推進学会学術総会では、東京にて皆様とお会いできますことを楽しみにしております。ご参加を心よりお待ちしております。

田仲 浩平

東京工科大学医療保健学部臨床工学科



この度、「第2回日本医療安全推進学会学術総会」におきまして、共同総会長を務めさせていただくことになりました田仲浩平でございます。この場をお借りし、中村京太先生および近藤匡慶先生とともに、皆様をお迎えできますことを大変光榮に存じます。本総会では、「協力する力。描く未来。」という共通の目標に向かい、前向きな視点と具体的な行動を重んじながら取り組んでまいります。この大会を、未来を創造する一歩として、より充実したものになりたいと考えております。

近年、医療の現場では技術革新が著しく進展する一方で、「人材不足」という重大な課題が私たちに重くのしかかっております。この課題は医療の質と安全に直接的な影響を及ぼし、患者サービスの低下や医療提供の遅延、ひいては医療安全性のリスクにもつながっています。医療システムを持続可能に保つためには、効率的な人材育成と適切な活用が求められており、これは私たちが今、最も注視すべき喫緊の課題であると確信しています。

そのような中、デジタル技術の導入は医療安全において注目すべき柱となっております。AI（人工知能）、XR（拡張・仮想現実）、RPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）などの先端技術は、医療現場におけるヒューマンエラーの減少や情報共有の精度向上を可能にし、医療従事者が安心して効率的に業務に取り組むための環境づくりを支援いたします。また、PHR（パーソナル・ヘルス・レコード）の普及により、患者自身が健康情報を管理し、医療機関との情報連携が可能になることで、医療従事者の負担軽減や患者の安全確保にも大きく寄与すると考えております。

加えて、デジタル化の進展に伴い、医療機関におけるサイバーセキュリティ対策の強化も必要不可欠です。データ保護やネットワーク防御、セキュリティ教育の充実が求められており、こうした新たな技術を的確に評価し、活用できる人材の育成がますます重要となってきています。したがって、デジタル技術を用いた効率的で効果的な教育ツールや現場支援の取り組みも、今後の重要な課題といえるでしょう。

本総会では、医療安全の向上をテーマに、講演やパネルディスカッション、ワークショップなどを通じて多様な具体的アイデアを提案し、最新の知識や経験を広く共有する機会を設けております。皆様のご理解とご協力が、本学術総会をより充実したものにし、未来の医療安全の発展に向けた大きな一歩となることを確信しております。

医療は私たちの生命と健康を守る重要な基盤であり、それを支える医療従事者の皆様の安全と安心も、医療の質の向上において欠かせない要素です。共通の志を持つ知識と経験が、現場での安全性の高い実践として継続され、次世代へと受け継がれるべき貴重な財産となることを願っております。今後も皆様とともに力を合わせ、未来の医療安全の在り方を見据え、持続可能で安心できる医療環境の構築に向けて知恵を結集し、前進してまいります。

会場のご案内

東京大学本郷キャンパス

住所 東京都文京区本郷7-3-1

- (受付・企業展示) 医学部2号館1階ロビー ※赤門を入れて直進してください
- (A会場) 医学部1号館3階大講堂
- (B会場) 医学部1号館1階小講堂
- (C会場) 医学部教育研究棟13階第5セミナー室
- (D会場) 医学部教育研究棟13階第6・7セミナー室
- (E会場) 医学部教育研究棟13階リフレッシュコーナー
- (控室・打合せ室) 医学部教育研究棟2階第1~3セミナー室



医学部2号館
受付

医学部1号館

医学部教育研究棟

学会の趣旨

本学会は医療安全推進の向上のための学術団体で、一般社団法人国際医療安全推進機構が主催します。

対象分野は医療事故・ミス、大規模災害およびパンデミック感染症における医療の安全を推進し、より良い医療安全文化を有する医療を構築します。医師、薬剤師、看護師、歯科医師、臨床工学技士、医療事務担当者、学生など広く様々な方々と交流を促進します。

一般社団法人の目的である社会に開かれた民主的な団体運営を行うために、理事長役職定年制(2年)および理事役職定年制(6年周期)を設置して理事会構成員を絶えず活性化することが不可欠です。これらによって日本社会の広範囲から様々な理事長と理事を登用し、社会の新しいニーズに絶えず対応できる新しい人材で学会運営を可能にします。

臨時理事会・会員総会のお知らせ

日本医療安全推進学会 臨時理事会

- ・ 会期: 2025年9月27日(土) 12:10～12:50
- ・ 開催場所はメールにてご案内いたします。

日本医療安全推進学会 会員総会

- ・ 会期: 2025年9月28日(日) 15:10～15:50

第3回 日本医療安全推進学会学術総会のお知らせ

会期: 2026年9月の土日2日間
場所: 東京大学医学部本郷キャンパス

共同総会長: 宇治原 誠 (国立病院機構 横浜医療センター 院長)
栗原 慎太郎 (長崎大学病院安全管理部教授)
長田 恵子 (東京医療保健大学副学長、立川看護学部教授)

副会長: 井口 新一 (医仁会武田総合病院臨床工学科係長、京都府臨床工学技士会副会長)

プログラム委員長: 高山 和郎 (東京大学医学部附属病院薬剤部主任)

プログラム副委員長: 檜山 明子 (札幌市立大学看護学部准教授)

実行委員長: 飛田 結実 (一般社団法人国際医療安全推進機構)

ホームページ: <https://mspo.org/jsmsp/3rdjsmsp/>

日程表 2025年9月27日(土)

9月27日		開会・閉会、会長講演、教育講演、シンポジウム・パネル討論会	教育講演、シンポジウム・パネル討論会	受付・企業展示
会場	A会場		B会場	受付・企業展示
場所	医学部1号館3階大講堂		医学部1号館1階小講堂	医学部2号館1階ロビー
8:00	8:00～ 受付開始		8:00～ 受付開始	8:00～ 受付開始
9:00	開会式・学会概要説明			
9:30	PL01 総会長講演 つながり、協働して創る安全な医療 演者: 中村京太 座長: 宇治原誠			企業展示 9:00-17:30
10:00	EL01 教育講演 患者中心の医療安全のためのポイント 演者: 高本真一 座長: 池田尚人		EL04 教育講演 医療現場における血液媒介性感染症対策 演者: 堤 武也 座長: 伊東俊雅	
10:30				
11:00	PN01 パネル討論会 医療安全におけるSafety-II 演者: 高橋 信、山口俊憲、田畑雅央 座長: 高橋 信		SN03 臨床安全シンポジウム がん高度医療の個別化治療における 抗がん剤の安全性に関する現状と課題 演者: 深貝隆志、手塚則明、納谷幸男 座長: 大谷壽一	
12:30	お昼休憩		お昼休憩	お昼休憩
13:30	SN01 災害・救急分科会シンポジウム 災害医療下での医療安全管理上の課題 演者: 近藤久禎、飯沼由嗣、高山和郎、植田信策 座長: 大友康裕、中村京太		PN02 パネル討論会 医師の医療安全に対する意識をどう高めるか？ 多職種で協議する 演者: 須郷広之、飯塚雄次、松下純子 座長: 納谷幸男	
14:30				
15:00	SN02 歯科分科会シンポジウム 歯科医療安全について(開業医、大学、病院の立場から) 演者: 佐久間泰司、磯谷一宏、高木純一郎 座長: 高木純一郎		SN04 医療事故調査分科会シンポジウム 事故調査における問題点 演者: 納谷佳男、遠藤純男、世川修 座長: 納谷幸男	
15:30				
16:00				
16:30	EL02 教育講演 日本集中治療医学会 集中治療に係る タスク・シフト/シェアに関する安全管理指針について 演者: 土井研人 座長: 永山正雄		EL05 教育講演 患者相談に必要なハードとソフト 演者: 栗原慎太郎 座長: 平井理心	
17:00				
17:30	EL03 教育講演 心理的安全性とself-compassion 演者: 納谷幸男 座長: 林 香月 17:40 一日目閉会		EL06 教育講演 医療安全から考察する震動実験における 医療機器の被害と治療継続について 演者: 相田伸二 座長: 服部昌和	
18:00				
18:00-20:00 懇親会 会場: 医学部教育研究棟13階イタリアン カポ・ペリカーノ 会費制: 5千円/人 立食形式(予定)				

日程表 2025年9月27日(土)

9月27日		シンポジウム・パネル討論会	一般演題、企業関連セッション	ポスター展示
会場	C会場		D会場	E会場
場所	医学部教育研究棟13階 第5セミナー室		医学部教育研究棟13階 第6・7セミナー室	医学部教育研究棟13階 リフレッシュコーナー
8:00	8:00～ 受付開始		8:00～ 受付開始	8:00～ 受付開始
9:00				ポスター掲示 9:00-17:30 ポスターは 9/27(土)11:30までに 各自で掲示してください。
9:30				
10:00				
10:30				
11:00	SN05 安全チーム分科会シンポジウム 身体拘束最小化に向けて			
11:30	演者:井上都之、高山和郎、岩尾誠也、落合秀人、庵原美香 座長:中川 麗			
12:00				
12:30	臨時理事会		お昼休憩	お昼休憩
13:00	12:10-12:50			
13:30	PN03 パネル討論会 医学部・歯学部モデルコアカリキュラムにおける 医療の質・安全教育のゆくえ ～次世代医療人育成のあり方を考える～		SP02 特別講演 ECMOにおけるインシデント事例と安全な運用 演者:園田 誠 座長:田仲浩平、相田伸二	ポスター発表 ※発表者は質疑応答を待機
14:00	演者:北野達也、清水光栄、関谷洋平 座長:北野達也		SP03 ハンズオンセミナー 医療安全管理責任者を対象としたECMOハンズオン :不安全ポイントの理解と対策	
14:30				
15:00				
15:30	PN04 パネル討論会 多様な職種 of 医療安全専従担当者が 描く未来と苦悩		NP01 一般演題 座長:井上都之	
16:00	演者:小野寺貴志、角田和博、田中勇人、齋藤謙治 座長:大原志歩			
16:30			NP02 一般演題 座長:迫田典子	
17:00				
17:30				
18:00				
18:00-20:00 懇親会 会場:医学部教育研究棟13階イタリアン カポ・ベリカーノ 会費制:5千円/人 立食形式(予定)				

※すでにお知らせのとおり役員 of 先生方は会期中に理事会が予定されています。

日程表 2025年9月28日(日)

9月28日		開会・閉会、会長講演、教育講演、シンポジウム・パネル討論会	教育講演、シンポジウム・パネル討論会	受付・企業展示
会場	A会場		B会場	受付・企業展示
場所	医学部1号館3階大講堂		医学部1号館1階小講堂	医学部2号館1階ロビー
8:00	8:00～ 受付開始		8:00～ 受付開始	8:00～ 受付開始
9:00				
9:30	PL02 総会長講演 注射薬の配合におけるリスクマネジメントの重要性を考察する 演者:近藤匡慶 座長:片岡雅晴		SN08 看護分科会シンポジウム 看護業務におけるタスクシェアの推進と看護安全/ 看護補助者へのタスクシェアと関連法規 演者:西田幸典、厚労省医政局看護科、五藤陽子 座長:大西真裕	企業展示 9:00-17:00
10:00	SN06 若手人材育成委員会シンポジウム 若手医療者・学生に対する医療安全教育の現状とこれから 演者:永山正雄、藤田眞幸、長田恵子、富田隆、落合秀人 座長:落合秀人			
10:30				
11:00				
11:30	EL07 教育講演 医療安全部門のみに委ねない 院内組織横断的な医療安全の取り組み 演者:林 香月 座長:佐久間泰司		EL09 教育講演 救急医療現場における医療安全の課題 演者:森下幸治 座長:郷間 巖	
12:00				
12:30	お昼休憩		お昼休憩	お昼休憩
13:00	SN07 シンポジウム 医療機関の安全ネットワークの現状と課題 座長:四柳 宏、石井庸介 演者:落合秀人、手塚則明、栗原慎太郎、堀田まゆみ、 大原志歩、保條説彦、手塚剛彦、藤井耕、 緒方賢司、高山和郎、松本高広		PN05 パネル討論会 チームで作る安全文化 —チームSTEPPSの取り組みから— 演者:植竹宏之、澁澤盛子、大西真裕 座長:長田恵子	
13:30				
14:00				
14:30				
15:00			EL10 教育講演 がん患者への治療方針の説明における課題 —インフォームドコンセントとShared Decision Makingの 相違を中心に— 演者:深貝隆志 座長:林 香月	
15:30	EL08 教育講演 院内救急システムとは? —急変に強い病院を目指して— 演者:池田尚人 座長:落合秀人			
16:00				
16:30	PL03 総会長講演 医療DXの推進は医療安全をどう変えるか :働き方とセキュリティの視点 演者:田中浩平 座長:栗原慎太郎			
17:00	閉会式・次期会長挨拶			

日程表 2025年9月28日(日)

9月28日		シンポジウム・パネル討論会	一般演題、企業関連セッション	ポスター展示
会場		C会場	D会場	E会場
場所		医学部教育研究棟13階 第5セミナー室	医学部教育研究棟13階 第6・7セミナー室	医学部教育研究棟13階 リフレッシュコーナー
8:00		8:00～ 受付開始	8:00～ 受付開始	8:00～ 受付開始
9:00				
9:30		PN06 パネル討論会 神経疾患患者の安全を守る多職種連携 脳神経外科におけるヒューマンエラー対策の最前線	SN12 臨床工学分科会シンポジウム 多職種で考えよう！人工呼吸器をめぐる 医療安全の取り組みと課題	ポスター掲示 9:00-17:30 ポスターは11:30までに 各自で掲示してください。
10:00	真者: 福田早苗、池田尚人、岩瀬正顕、迫田典子、甲州優、中山晴雄 座長: 中山晴雄、池田尚人	演者: 大野裕祐、小島美保、岩尾誠也、庵原美香 座長: 室屋充明、相田伸二		
10:30				
11:00	SN10 医薬品分科会シンポジウム			
11:30	タスクシフト/シェアに基づく 薬剤師の医療安全への貢献	SP04 ハンズオンセミナー 医療安全管理責任者を対象としたECMOハンズオン : 不安全ポイントの理解と対策		
12:00	演者: 貞永淳平、今中翔一、吉田真人、松岡順子 座長: 林 太祐			
12:30	お昼休憩	お昼休憩	お昼休憩	お昼休憩
13:00	SN11 内科分科会シンポジウム		NP03 一般演題	
13:30	内科領域での臨床安全の現状と課題		座長: 檜山明子	
14:00	演者: 永山正雄、森 仁、中川裕美子 座長: 林 香月		NP04 一般演題	
14:30			座長: 岩尾誠也	
15:00				ポスター撤収15:00
15:30			会員総会 ※プログラム委員会を兼ねる。次期会長挨拶を含む。 15:10-15:50	以降残っている場合は回収、 学会で保管する
16:00				
16:30				
17:00				

※会員総会は全会員が参加対象です。

報道関係の方へ

1. 報道機関、出版社の取材記者の方へ

- ・ 会場参加のみ可能です。オンデマンドのみの参加はできません。予めご了承ください。
- ・ 参加費は無料です。参加をご希望の場合はメールにてお問い合わせください。
当日は会場受付にお越しになり、名刺をお渡しくください。 【電子メール】 2ndjmsmp@mspo.org
- ・ 抄録集(印字版)をご希望の際には、1部2,000円にて購入いただけます。
- ・ 本学術総会の開催ついて貴社を通じて広く社会へ広報していただけますと幸いです。

展示企業の方へ

1. 展示場所

- ・ 東京大学医学部2号館1階ロビーです。
- ・ 各企業の展示は学会から指定された場所を使用してください。配置表を別送します。

2. 展示時間

- ・ 9月27日(土) 9:00 ～ 17:30
- ・ 9月28日(日) 9:00 ～ 17:00

3. 資材の搬入

- ・ 9月26日(金) 18:00以降もしくは9月27日(土)8:00以降に搬入及び設置をお願いいたします。

4. タクシーや自家用車での搬入・搬出の方法

- ・ 会場入り口前に車を停めて搬入・搬出が可能です。
- ・ 東京大学構内へは竜岡門からお入りください。駐車料金はご負担いただきますようお願いいたします。
(30分まで無料・以降 300円/20分、24時間ごとに最大3,000円)

5. 貸出物

- ・ 展示ブース1小間は、幅180cm×奥行150cmです。以下貸出が可能です。
 - ・ テーブル1台、椅子2脚
 - ・ 電源: 壁コンセントがあります。別送の配置表に明記します。利用される場合は10メートル延長コードと電源タップを持参してください。
- ・ その他(バックパネル等)はご自身でご用意ください。

6. 昼食

- ・ 徒歩5分の安田講堂前広場の地下に学食と生協があります。費用は自費負担。

7. インターネット

- ・ 会場ではゲストWi-Fiをお使いいただけます。詳細は下記のリンクよりご確認ください。
- ・ <https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/dics/ja/wlan.html>

交通のご案内



最寄り駅からのアクセス

- 本郷三丁目駅（地下鉄丸の内線）より徒歩8分
- 本郷三丁目駅（地下鉄大江戸線）より徒歩6分
- 湯島駅又は根津駅（地下鉄千代田線）より徒歩8分
- 東大前駅（地下鉄南北線）より徒歩1分
- 春日駅（地下鉄三田線）より徒歩10分

懇親会

2025年9月27日（土） 18:00～20:00

会費：税込 5千円/人

東京大学医学部教育研究棟 13階

イタリアン Capo PELLICANO 〈カポ・ペリカーノ〉

HP: <http://www.capo-p.com/>

住所: 〒113-0033 東京都文京区本郷7丁目3-1

TEL: 03-5841-1527

飲食について

会場内の飲食・喫煙は一切禁止されています。

(昼食)

安田講堂前広場の地下に学生食堂と生協があります。

東大正門~本郷三丁目交差点付近に多数の飲食店があります。

後楽園ドームシティには多数の飲食店がございます。(タクシー5分、徒歩15分)

その他飲食店情報は下記をご参照ください。

<https://mspo.org/jsmsp/2ndjsmsp/restaurant/index.html>



令和5(2023)年4月版

座長・演者へのお知らせとお願い

1. 座長の方へ

- ・ ご担当セッションの開始10分前までに各会場へご入場ください。
- ・ 進行は時間厳守でお願いいたします。アナウンス係の準備はございませんので、時間になりましたら開始してください。

2. 招聘講演および教育講演の発表の方法

- ・ 各セッション開始の10分前までに、次演者席（各会場右側前方）にお越しください。
- ・ 座長による紹介のため、ご略歴等の資料を会期1週間前を目安に事務局へお届けください。

3. シンポジウムの発表の方法

- ・ 講演は1人の発表者につき原則15分です。座長からの指示がある場合は別途ご対応ください。
- ・ 各セッション開始の10分前までに、次演者席（各会場右側前方）にお越しください。

4. パネル討論会の発表の方法

- ・ 講演は1人の発表者につき原則15分です。座長からの指示がある場合は別途ご対応ください。
- ・ 各セッション開始の10分前までに、次演者席（各会場右側前方）にお越しください。

5. 一般演題の発表の方法

- ・ 一般演題(口演)は1題10分(質疑応答2分含む)です。
- ・ 各セッション開始の10分前までに、次演者席（各会場右側前方）にお越しください。

6. 発表形式について

- ・ パワーポイント資料の比率は任意ですが、4:3を推奨します。
- ・ ポスターのサイズはA0サイズです。
- ・ 円滑な運営のため、発表データは前もって事務局までご提出ください。
(提出先: 2ndjmsmp@mspo.org、提出期限: 9/21(日))
- ・ 発表資料に変更がある場合は、パワーポイントのデータを保管したUSBメモリをご持参ください。
- ・ 発表時のスライド操作につきましては、リモコン操作器具をご用意いたします。
- ・ PC(Windows7ないしWindows10)一台をご用意できます。
- ・ マッキントッシュPCをご持参の場合: 録画準備が必要のため9/21(日)までに事務局へお知らせください。また、モニター(HDMI)との接続ケーブルをご持参ください。

7. 打合せ室・控室について

- ・ 医学部教育研究棟2階第1セミナー室、第2セミナー室、第3セミナー室を使用できます。

8. 学会賞

医療安全文化促進賞(優秀賞)

- … 一般演題から若干数を選考・授与します。選考は総会長・プログラム委員によります。
対象者へ学会機関誌「医療安全推進」に受賞論文としての寄稿を依頼します。

医療安全文化促進賞(功労賞)

- … 発表演題数に応じて授与します。

サテライトフレンズワークショップ 9月26日(金)

会場: 東京大学医学部教育研究棟 13階 第6・7セミナー室

サテライトフレンズワークショップの目的:
日頃の取り組みや悩みについて気軽に語り合える仲間をつくる。

9月27日(土)～28日(日)の第2回日本医療安全推進学会学術総会の事前参加申込を完了した方は
登録なしでご参加いただけます。

※別途9月27日(土)～28日(日)の第2回日本医療安全推進学会学術総会の事前参加申込が必要です。

WS01: 医療安全フレンズワークショップ

14:00-15:00

演者: 肥田圭介(岩手医科大学 医療安全学講座、岩手医科大学附属病院 医療安全管理部)
手塚則明(東北薬科大学病院医療安全)
植竹宏之(独立行政法人国立病院機構 災害医療センター 臨床研究部長)
郷間 巖(堺市立総合医療センター 呼吸器内科・部長)
長田亮介(北信総合病院 医療安全管理室)

WS02: 医薬品フレンズワークショップ

15:10-16:10

演者: 今中翔一(帝京大学医学部附属病院薬剤部 係長)
高山和郎(東京大学医学部附属病院薬剤部、東京都災害薬事コーディネーター)
雨宮貴洋(帝京平成大学薬学部治療評価学ユニット)
座長: 内田まやこ(九州大学病院 教授・薬剤部長)

WS03: 看護フレンズワークショップ

16:20-17:20

演者: 頼永 桂(福岡大学病院 看護部)
木村由紀(長崎大学病院 医療相談室 看護師長)
井上都之(岩手県立大学看護学部)
座長: 井上都之(岩手県立大学看護学部)

プログラム 9月27日(土)

(A会場) 2025年9月27日

東京大学医学部1号館3階大講堂

開会式

PL01: 総会長講演

9:00-9:30

テーマ: つながり、協働して創る安全な医療

座長: 宇治原 誠 (国立病院機構 横浜医療センター 院長)

演者: 中村 京太 (横浜市立大学附属市民総合医療センター医療の質・安全管理部)

EL01: 教育講演

9:50-10:20

テーマ: 患者中心の医療安全のためのポイント

座長: 池田 尚人 (昭和医科大学江東豊洲病院 脳血管センター・脳神経外科)

演者: 高本 眞一 (東京大学名誉教授、日本心臓外科血管学会名誉理事長)

PN01: パネル討論会

10:40-12:00

テーマ: 医療安全における Safety-II

座長: 高橋 信 (東北大学大学院工学研究科)

(PN01-1) 医療安全における Safety-II の重要性

演者: 高橋 信 (東北大学大学院工学研究科)

(PN01-2) Safety-II の現場適用の難しさ

演者: 田畑 雅央 (東北大学病院)

(PN01-3) 現場経験からの Safety-II への期待

演者: 山口 俊憲 (山形産業技術短大)

SN01 : 災害・救急分科会シンポジウム

13:00-14:20

テーマ: 災害医療下での医療安全管理上の課題

座長: 大友 康裕 (国立病院機構災害医療センター病院長、東京医科歯科大学名誉教授)

中村 京太 (横浜市立大学附属市民総合医療センター医療の質・安全管理部)

(SN01-1) 災害医療の役割の本質と医療安全

演者: 近藤 久禎 (国立健康危機管理研究機構 DMAT 事務局)

(SN01-2) 能登半島地震における感染症対応の課題

演者: 飯沼 由嗣 (金沢医科大学臨床感染症学)

(SN01-4) 被災地での薬剤に関わる医療安全上の課題

演者: 高山 和郎 (東京大学医学部附属病院薬剤部主任)

(SN01-5) 災害時の医療安全上の課題の実例

演者: 植田 信策 (日本赤十字社医療事業推進本部)

SN02 : 歯科分科会シンポジウム

14:40-16:00

テーマ: 歯科医療安全について (開業医, 大学, 病院の立場から)

座長: 高木 純一郎 (石川県立中央病院)

演者: 佐久間 泰司 (大阪歯科大学歯学部医療安全管理学/ペインクリニック)

磯谷 一宏 (赤坂見附磯谷歯科室 院長)

高木 純一郎 (石川県立中央病院)

EL02 : 教育講演

16:20-16:50

テーマ: 日本集中治療医学会

集中治療に係るタスク・シフト/シェアに関する安全管理指針について

座長: 永山 正雄 (国際医療福祉大学成田病院 医療安全管理部、脳神経内科)

演者: 土井 研人 (東京大学大学院医学系研究科 救急・集中治療医学)

EL03 : 教育講演

17:10-17:40

テーマ: 心理的安全性と self-compassion

座長: 林 香月 (名古屋市立大学医学部附属東部医療センター 消化器内科)

演者: 納谷 幸男 (帝京大学ちば総合医療センター 安全管理部)

(B会場) 2025年9月27日

東京大学医学部1号館1階小講堂

EL04 : 教育講演

9:50-10:20

テーマ: 医療現場における血液媒介性感染症対策

座長: 伊東 俊雅 (東京女子医科大学附属足立医療センター薬剤部、医薬品安全管理者)

演者: 堤 武也 (東京大学医学部附属病院 感染制御部)

SN03 : 臨床安全シンポジウム

10:40-12:00

テーマ: がん高度医療の個別化治療における抗がん剤の安全性に関する現状と課題

座長: 大谷 壽一 (慶應義塾大学医学部教授、慶應義塾大学病院薬剤部長)

(SN03-1) 泌尿器科医の立場から

深貝 隆志 (昭和大学病院泌尿器科)

(SN03-2) 高難度新規医療導入に関する取り組みを参考にした、抗がん化学療法の安全管理

手塚 則明 (東北医科薬科大学 医療安全学)

(SN03-3) がん高度医療の個別化治療における抗がん剤の安全性に関する現状と課題

納谷 幸男 (帝京大学ちば総合医療センター 安全管理部)

PN02 : パネル討論会

13:00-14:20

テーマ: 医師の医療安全に対する意識をどう高めるか? ~多職種で協議する~

座長: 納谷 幸男 (帝京大学ちば総合医療センター 安全管理部)

(SN03-1) 医師の立場から

須郷 広之 (順天堂大学医学部附属練馬病院 医療安全管理室/総合外科)

(SN03-2) 薬剤師の立場から

飯塚 雄次 (帝京大学ちば総合医療センター 薬剤部長)

(SN03-3) 看護師の立場から

松下 純子 (帝京大学ちば総合医療センター 安全管理部)

SN04 : 医療事故調査分科会シンポジウム

14:40-16:00

テーマ : 事故調査における問題点

座長 : 納谷 幸男 (帝京大学ちば総合医療センター 安全管理部)

(SN04-1) 小規模病院における医療事故調査の現状と問題点

納谷 佳男 (長浜市立湖北病院 病院長)

(SN04-2) 中規模病院における事故調査の問題点について

遠藤 純男 (鎌ヶ谷総合徳洲会病院 脳外科)

(SN04-3) 大学病院における医療事故再発防止の取り組み

世川 修 (東京女子医科大学 医療安全・危機管理部部長)

EL05 : 教育講演

16:20-16:50

テーマ : 患者相談に必要なハードとソフト

座長 : 平井 理心 (筑波大学附属病院・医療安全管理部 心理士 GRM)

演者 : 栗原 慎太郎 (長崎大学病院安全管理部教授)

EL06 : 教育講演

17:10-17:40

テーマ : 医療安全から考察する震動実験における医療機器の被害と治療継続について

座長 : 服部 昌和 (福井厚生病院院長、消化器外科)

演者 : 相田 伸二 (京都大学医学部附属病院 医療器材部 臨床工学技士)

(C会場) 2025年9月27日

東京大学医学部教育研究棟 13階第5セミナー室

SN05 : 安全チーム分科会シンポジウム

10:40-12:00

テーマ：身体拘束最小化に向けて

座長：中川 麗 (JR札幌病院 救急総合診療科)

演者：井上 都之 (岩手県立大学 看護学部 准教授)

高山 和郎 (東京大学医学部附属病院薬剤部主任)

庵原 美香 (学校法人花園学園 花園大学・社会福祉学部 社会福祉学科 講師、博士)

岩尾 誠也 (宇佐高田医師会病院 リハビリテーション課 理学療法士)

落合 秀人 (浜松医療センター 医療安全管理部 消化器外科)

PN03 : パネル討論会

13:00-14:50

テーマ：医学部・歯学部モデルコアカリキュラムにおける医療の質・安全教育のゆくえ

～次世代医療人育成のあり方を考える～

座長：北野 達也 (星城大学 経営学部 医療マネジメント分野 医療マネジメント研究室 教授/
認定医学教育専門家)

(PN03-1) 医学部・歯学部モデルコアカリキュラムにおける医療の質・安全教育のゆくえ
～次世代医療人育成のあり方を考える～

北野 達也 (星城大学 経営学部 医療マネジメント分野 医療マネジメント研究室 教授/
認定医学教育専門家)

(PN03-2) 医療安全・チーム医療における医学教育の重要性～医療法務からの関わり方

清水 光栄 (名古屋市立大学大学院医学研究科 予防社会医学専攻 医療安全管理学 特任准教授、
弁護士)

(PN03-3) エアラインにおける Non-technical skill の醸成及びレジリエンス強化

関谷 洋平 (Aviator Science)

PN04 : パネル討論会

15:20-16:50

テーマ: 多様な職種の医療安全専従担当者が描く未来と苦悩

座長: 大原 志歩 (社会福祉法人 済生会支部 神奈川県済生会横浜市東部病院
TQMセンター 医療安全管理室 副室長)

(PN04-1) 医療安全の担い手として感じる葛藤と希望

小野寺 貴志 (医療法人五星会 菊名記念病院 臨床工学技士)

(PN04-2) 回復期リハビリテーション病院におけるセラピストと看護師の医療安全

田中 勇人 (医療社団法人 葵会 AOI リハビリテーション病院 作業療法士)

(PN04-3) 偶然か、必然か、アラフォーの薬剤師が医療安全に係った。

齋藤 謙治 (社会福祉法人 済生会支部 神奈川県済生会横浜市東部病院
TQMセンター医療安全管理室 薬剤師)

(PN04-4) 医師・看護師以外の医療安全管理専従者が抱える葛藤について

角田 和博 (社会医療法人ジャパンメディカルアライアンス 海老名総合病院
医療安全推進部 医療安全対策室 臨床工学技士)

(D会場) 2025年9月27日

東京大学医学部教育研究棟 13階第6セミナー室

SP02 : 特別講演

13:00-13:40

テーマ: ECMOにおけるインシデント事例と安全な運用

座長: 田仲 浩平 (東京工科大学医療保健学部臨床工学科)

相田 伸二 (京都大学医学部附属病院 医療器材部 臨床工学技士)

演者: 藺田 誠 (日本赤十字社愛知医療センター 名古屋第二病院 臨床工学科)

SP03 : ハンズオンセミナー

14:00-15:00

テーマ: 医療安全管理責任者を対象とした ECMO ハンズオン: 不安全ポイントの理解と対策

主催: 臨床工学分科会

開催責任者: 田仲 浩平 (東京工科大学医療保健学部臨床工学科)

実習担当者: 藺田 誠 (日本赤十字社愛知医療センター 名古屋第二病院 臨床工学科)

海津 達也 (東京慈恵会医科大学附属柏病院 臨床工学部)

NP01 : 一般演題

15:20-16:10

座長: 井上 都之 (岩手県立大学 看護学部 准教授)

(NP01-1) 食道亜全摘術後の呼吸器合併症予防に向けたインセンティブスパイロメトリーを用いた呼吸訓練の患者・家族の認識と支援の検討

迫田典子 (獨協医科大学 看護学部)

(NP01-2) 身体拘束最小化に向けた取り組み ～電子カルテデータから抽出した課題の検討～

佐々木 仁美 (昭和大学大学院保健医療学研究科

医系基礎・専門・教育分野医療マネジメント学領域)

(NP01-3) D 医科大学 A 医療センターにおける看護師の一次救命処置資格保有の現状と意識調査

渡辺 沙織 (獨協医科大学日光医療センター・看護部)

(NP01-4) 医療安全に関する看護補助者への教育を実施した結果

田久保 愛 (かわぐち心臓呼吸器病院 看護部 医療安全管理室)

(NP01-5) 「入院患者における睡眠薬使用と転倒・転落リスクの関連に関する後方視的検討」

篠田 真歩 (順天堂大学医学部附属浦安病院 薬剤科)

NP02 : 一般演題

16:30-17:10

座長: 迫田 典子 (獨協医科大学 看護学部)

(NP02-1) 当院におけるDNARの意識調査からの発展
～リストバンド表示による同意状況の可視化～

宮本 直武 (土別市立病院 診療技術部診療放射線科、医療安全管理室)

(NP02-2) 入院中患者における転倒転落発生後の頭部外傷予測に向けた対応プロトコルの構築

宮本 直武 (土別市立病院 診療技術部診療放射線科、医療安全管理室)

(NP02-3) インデフレータに使用される希釈造影剤の変色事案に関する調査研究

宮本 直武 (土別市立病院 診療技術部診療放射線科、医療安全管理室)

(NP02-4) 会議前後に行う「チェックイン・チェックアウト」の有効性検証

藤井 耕 (京都民医連あすかい病院・医療安全管理室)

(E会場) 2025年9月27日

東京大学医学部教育研究棟 13階リフレッシュコーナー

PP01 : 一般演題 (ポスター)

13:00-13:30

(PP01-1) 夜間に特化した転倒転落を減らす取り組みとそこから見えてきた課題

谷口 純子 (地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪国際がんセンター 看護部)

(PP01-2) 現場の実践者一人ひとりが質改善を意識する仕組みづくりにむけて

頼永 桂 (福岡大学病院 看護部)

(PP01-3) 在宅においてケアを受ける療養者の安全についての一考察

甲州 優 (獨協医科大学 看護学部)

(PP01-4) 注射疑義照会及びプレアボイド報告から見た薬剤師の行動解析

川口 大毅 (東京女子医科大学附属足立医療センター薬剤部)

(PP01-5) 放射線部のインシデントレポート提出促進の取り組み

佐々木 祐輔 (岩手医科大学附属病院)

(PP01-6) テキストマイニングを使用した手術用器具等のインシデントレポートの分析

木田 奈々美 (滋慶医療科学大学 医療科学部)

プログラム 9月28日(日)

(A会場) 2025年9月28日

東京大学医学部1号館3階大講堂

PL02: 総会長講演

9:00-9:30

テーマ: 注射薬の配合におけるリスクマネジメントの重要性を考察する

座長: 片岡 雅晴 (産業医科大学医学部第2内科学、循環器内科)

演者: 近藤 匡慶 (日本医科大学多摩永山病院 薬剤部)

SN06: 若手人材育成委員会シンポジウム

9:50-11:10

テーマ: 若手医療者・学生に対する医療安全教育の現状とこれから

座長: 落合 秀人 (浜松医療センター 医療安全管理部 消化器外科)

(SN06-1) 医師、医学生、多職種に対する医療安全教育

永山 正雄 (国際医療福祉大学成田病院 医療安全管理部、脳神経内科)

(SN06-2) 医学部における医療安全教育

-原因究明・再発防止・紛争回避に係わる法医学視点からのアプローチ

藤田 眞幸 (慶應義塾大学医学部法医学教室)

(SN06-3) 医療安全教育における臨床と基礎教育との協働

長田 恵子 (東京医療保健大学 立川看護学部)

(SN06-4) 薬学生・薬剤師が直面している医療安全教育の実情

富田 隆 (国際医療福祉大学三田病院薬剤部、医療法人財団順和会薬剤部、
国際医療福祉大学成田薬学部)

(SN06-5) 医学部における医療安全教育についてのアンケート結果と初期研修医の現状

落合 秀人 (浜松医療センター 医療安全管理部 消化器外科)

EL07: 教育講演

11:30-12:00

テーマ: 医療安全部門のみに委ねない院内組織横断的な医療安全の取り組み

座長: 佐久間 泰司 (大阪歯科大学歯学部医療安全管理学)

演者: 林 香月 (名古屋市立大学医学部附属東部医療センター 消化器内科)

SN07: 特別シンポジウム

13:00-15:00

テーマ: 医療機関の安全ネットワークの現状と課題

座長: 四柳 宏 (東京大学医科学研究所先端医療研究センター)

石井 庸介 (日本医科大学付属病院副院長、医療安全管理部、心臓血管外科)

(SN07-1) 医療安全における院内多職種連携の取り組み

落合 秀人 (浜松医療センター 医療安全部 消化器外科)

(SN07-2) タイトル

手塚 則明 (東北医科薬科大学 医療安全学)

(SN07-3) 医療安全の地域連携と基幹病院

栗原 慎太郎 (長崎大学病院安全管理部)

(SN07-4) タイトル

堀田 まゆみ (東海大学医学部附属八王子病院 医療安全対策課)

(SN07-5) 医療機関の安全ネットワークの現状と課題

大原 志歩 (社会福祉法人恩賜財団済生会支部 神奈川県済生会横浜市東部病院

TQMセンター 医療安全管理室 副室長)

(SN07-6) タイトル

保條 説彦 (所属)

(SN07-7) タイトル

手塚 剛彦 (東北医科薬科大学 医療安全学)

SN07 : シンポジウム (つづき)

(SN07-8) 安全ネットワーク構築のために「対話」の種を撒く
～インターナル・コミュニケーションの重要性～

藤井 耕 (京都民医連あすかい病院 医療安全管理室)

(SN07-9) 医療機関の安全ネットワークの現状と課題

緒方 賢司 (医療法人徳洲会 千葉西総合病院 副院長)

(SN07-10) タイトル

高山 和郎 (東京大学医学部附属病院薬剤部)

(SN07-11) 高濃度カリウム注使用における研修制度の確立と課題

松本 高広 (東邦大学医療センター大森病院 薬剤部)

EL08 : 教育講演

15:20-15:50

テーマ: 院内救急システムとは? -急変に強い病院を目指して-

座長: 落合 秀人 (浜松医療センター 医療安全管理部 消化器外科)

演者: 池田 尚人 (昭和医科大学江東豊洲病院 脳血管センター・脳神経外科)

大西 真裕 (昭和医科大学保健医療学部 看護学科)

PL03 : 総会長講演

16:00-16:30

テーマ: 医療DXの推進は医療安全をどう変えるか:働き方とセキュリティの視点

座長: 栗原 慎太郎 (長崎大学病院安全管理部教授)

演者: 田仲 浩平 (東京工科大学 片柳研究所 デジタルヘルスイノベーションセンター)

(B会場) 2025年9月28日

東京大学医学部1号館1階小講堂

SN08: 看護分科会シンポジウム

9:20-11:10

テーマ: 看護業務におけるタスクシェアの推進と看護安全/
看護補助者へのタスクシェアと関連法規

座長: 大西真裕 (昭和医科大学 保健医療学部 看護学科 講師)

(SN08-1) 保助看法と看護補助者へのタスクシェア

西田 幸典 (神奈川工科大学 健康医療科学部 看護学科 教授)

(SN08-2) 現行制度の下で実施可能な範囲におけるタスクシフト・シェアの推進について

厚生労働省 医政局 医事課より

(SN08-3) 看護補助者へのタスクシェアの取り組みについて

五藤 陽子 (北里大学附属病院 副看護部長)

EL09: 教育講演

11:30-12:00

テーマ: 救急医療現場における医療安全の課題

座長: 郷間 巖 (堺市立総合医療センター 呼吸器内科・部長)

演者: 森下 幸治 (東京科学大学 救急災害医学分野)

PN05 : パネル討論会

13:00-14:20

テーマ: チームで作る安全文化—チーム STEPPS の取り組みから—
座長: 長田 恵子 (東京医療保健大学立川看護学部)

(PN05-1) チームで作る安全文化 —国立病院機構の取り組み—

植竹 宏之 (独立行政法人国立病院機構 本部特命調整役 (本部医療安全対

(PN05-2) チームパフォーマンスを発揮するためのコミュニケーションスキル

澁澤 盛子 (独立行政法人国立病院機構埼玉病院 看護部長)

(PN05-3) 看護補助者を取り巻く現状と今後の展望

大西 真裕 (昭和医科大学保健医療学部看護学科 講師、昭和医科大学藤が丘病院看護部 手術室)

EL10 : 教育講演

14:30-15:00

テーマ: がん患者への治療方針の説明における課題
—インフォームドコンセントと Shared Decision Making の相違を中心に—

座長: 林 香月 (名古屋市立大学医学部附属東部医療センター消化器内科)

演者: 深貝 隆志 (昭和大学病院泌尿器科)

(C会場) 2025年9月28日

東京大学医学部教育研究棟 13階 第5セミナー室

PN06: パネル討論会

9:20-10:20

テーマ: 神経疾患患者の安全を守る多職種連携
脳神経外科におけるヒューマンエラー対策の最前線
座長: 中山 晴雄 (東邦大学医療センター大橋病院 脳神経外科)
池田 尚人 (昭和医科大学江東豊洲病院 脳血管センター・脳神経外科)

(PN06-1) 院内発症した脳卒中に対する迅速対応システム

福田 早織 (昭和医科大学江東豊洲病院 脳血管センター・脳神経内科)

(PN06-2) 脳卒中急性期医療を事故なく円滑に進めるためのチーム医療教育としての
Immediate Stroke Life Support の意義

池田 尚人 (昭和医科大学江東豊洲病院 脳神経外科)

(PN06-3) 神経疾患患者の安全を守る 脳神経外科救急の立場から

岩瀬 正顕 (関西医科大学総合医療センター 脳神経外科)

(PN06-4) 地域包括ケアを支える ISLS:

救急搬送から在宅支援までの脳卒中医療をつなぐ教育的アプローチ

迫田 典子 (獨協医科大学 看護学部)

(PN06-5) 在宅脳卒中患者における福祉用具活用と事故防止の課題

甲州 優 (獨協医科大学看護学部 在宅看護学)

(PN06-6) 医師主導ではない真の意思決定を支援する: 多職種で育む患者・家族中心の医療

中山 晴雄 (東邦大学医療センター大橋病院 脳神経外科)

SN10: 医薬品分科会シンポジウム

10:40-12:10

テーマ: タスクシフト/シェアに基づく薬剤師の医療安全への貢献
座長: 林 太祐 (日本医科大学多摩永山病院 薬剤部 副薬剤部長)

(SN10-1) 周術期における薬剤師の医療安全への貢献 ～手術室の薬剤師の役割～

貞永 淳平 (東邦大学医療センター大森病院 薬剤部 薬剤師)

(SN10-2) 救急・集中治療に携わる薬剤師のタスクシフト/シェアによる医療安全への貢献

今中 翔一 (帝京大学医学部附属病院 薬剤部 係長)

(SN10-3) がん化学療法における薬剤師外来の立ち上げと実際の取り組み

吉田 真人 (日本医科大学多摩永山病院 薬剤部 主任)

(SN10-4) 妊娠・授乳と薬相談外来における医療安全への貢献

松岡 順子 (日本医科大学武蔵小杉病院 薬剤部 係長)

SN11: 内科分科会シンポジウム

13:00-14:20

テーマ: 内科領域での臨床安全の現状と課題
座長: 林 香月 (名古屋市立大学医学部附属東部医療センター消化器内科)

(SN11-1) 疾患・症候・病態に対するリスク管理と危機管理;意識障害を例として

永山 正雄 (国際医療福祉大学成田病院 医療安全管理部、脳神経内科)

(SN10-2) 指差し呼称は必要か?患者誤認対策のカスタマイズ

森 仁 (水島中央病院 脳神経内科)

(SN10-3) 医療安全を推進する多職種参加型M&Mカンファレンスの取り組み

中川 裕美子 (京都民医連あすかい病院)

(D会場) 2025年9月28日

東京大学医学部教育研究棟 13階 第6セミナー室

SN12: 臨床工学分科会シンポジウム

13:00-14:20

テーマ: 多職種で考えよう!人工呼吸器をめぐる医療安全の取り組みと課題

座長: 室屋 充明 (NTT 東日本関東病院 医師)

相田 伸二 (京都大学医学部附属病院 医療器材部 臨床工学技士)

(SN12-1) 呼吸器管理の安全について考える～臨床工学技士のハードとソフトをつなぐ視点～

大野 裕祐 (NTT 東日本関東病院 臨床工学部 臨床工学技士)

(SN12-2) 安全な人工呼吸器管理に向けた集中ケア認定看護師の取り組み

小島 美保 (社会医療法人ジャパンメディカルアライアンス 海老名総合病院 集中ケア認定看護師)

(SN12-3) 人工呼吸器管理中のリハビリテーションにおける医療安全管理上の課題

岩尾 誠也 (宇佐高田医師会病院 リハビリテーション課 理学療法士)

(SN12-4) 人工呼吸器を必要とする患者の保健医療福祉ネットワーク

庵原 美香 (花園大学社会福祉学科 講師 認定医療ソーシャルワーカー)

SP04: ハンズオンセミナー

11:00-12:00

テーマ: 医療安全管理責任者を対象とした ECMO ハンズオン: 不安全ポイントの理解と対策

主催: 臨床工学分科会

開催責任者: 田仲 浩平 (東京工科大学医療保健学部臨床工学科)

実習担当者: 藪田 誠 (日本赤十字社愛知医療センター 名古屋第二病院 臨床工学科)

海津 達也 (東京慈恵会医科大学附属柏病院 臨床工学部)

NP03 : 一般演題

13:00-13:40

座長: 檜山 明子 (札幌市立大学 看護学部)

(NP03-1) チーム医療を支える力へ 歯科補助者向け TeamSTEPPS 研修の成果と展望

高木 純一郎 (石川県立中央病院・歯科口腔外科)

(NP03-2) 能登半島地震に学ぶ災害歯科医療とは

高木 純一郎 (石川県立中央病院・歯科口腔外科)

(NP03-3) 電気設備の停電点検におけるインシデント低減に向けた医療機器安全

渡邊 雅俊 (国家公務員共済組合連合会東海病院 臨床工学科、
名古屋市立大学大学院 データサイエンス研究科)

(NP03-4) 医療安全教育の試み ～研修医と現場安全管理者を対象に～

山本 智美 (浜松医療センター 医療安全管理部 医療安全管理室)

NP04 : 一般演題

14:00-14:40

座長: 迫田 典子 (獨協医科大学 看護学部)

岩尾 誠也 (宇佐高田医師会病院 リハビリテーション課 理学療法士)

(NP04-1) ラテックスアレルギーの患者に安全な病院食を提供する取り組み

真田 美奈 (公益社団法人日本海員掖済会 小樽掖済会病院)

(NP04-2) 小児専門病院における手術部位マーキングの取り組み

世川 奈美 (長野県立こども病院 手術室)

(NP04-3) 手術安全チェックリストは機能しているか?

～過去3年間のインシデント分析から見えた運用上の課題～
柴田 芽育 (長野県立こども病院 手術室)

閉会式・次大会長挨拶

16:30-17:00



専用溶解液添付製品

薬価基準収載

GnRHアンタゴニスト(徐放性)/前立腺癌治療剤
(注射用デガレリクス酢酸塩)

本剤の効能又は効果、用法及び用量、禁忌を
含む注意事項等情報等については電子化
された添付文書をご参照ください。



ゴナックス[®]皮下注用 80mg
120mg
240mg

劇薬、処方箋医薬品(注意—医師等の処方箋により使用すること)

Gonax[®]

製造販売元(輸入)

FERRING
PHARMACEUTICALS

フェリング・ファーマ株式会社

〒105-0001 東京都港区虎ノ門二丁目10番4号
(文献請求先及び問い合わせ先) くすり相談室
フリーダイヤル: 0120-093-168

ゴナックス[®]、Gonax[®]はフェリング・ファーマB.V.の登録商標です
©2023 Ferring Pharmaceuticals Co., Ltd.

JP-URONC-2300123
2023年11月作成

まだないくすりを 創るしごと。

世界には、まだ治せない病気があります。

世界には、まだ治せない病気とたたかう人たちがいます。

明日を変える一錠を創る。

アステラスの、しごとです。

www.astellas.com/jp/

明日は変えられる。





Eisai

hbc
human health care

患者様の想いを見つめて、 薬は生まれる。

顕微鏡を覗く日も、薬をお届けする日も、見つめています。
病気とたたかう人の、言葉にできない痛みや不安。生きることへの希望。
私たちは、医師のように普段からお会いすることはできませんが、
そのぶん、患者様の想いにまっすぐ向き合っていたいと思います。
治療を続けるその人を、勇気づける存在であるために。
病気を見つめるだけでなく、想いを見つめて、薬は生まれる。
「ヒューマン・ヘルスケア」。それが、私たちの原点です。

ヒューマン・ヘルスケア企業 エーザイ

AFUTUREFREEOFLE
Global Impact

エーザイはWHOのリンパ系フィラリア病制圧活動を支援しています。



ブレイクスルーを 患者さんへ

バイエルのミッション「Health for all, Hunger for none
(すべての人に健康を、飢餓をゼロに)」の実現に向けて、
患者さんの治療に変革をもたらすイノベーションを推進し、
人々のクオリティ・オブ・ライフの向上に貢献していきます。

バイエル薬品株式会社 <https://pharma.bayer.jp>

Health for all, Hunger for none



新しい生きろを、創る。

A new way of life

独自技術で難病に挑み、ひとりの「生きる」に希望をとどける。

ユニークな機能性食品で、みんなの「生きる」を健やかにする。

京都から世界へ。

新しい時代の、新しい生きるを、

わたしたちは、創っていく。



 **日本新薬**
NIPPON SHINYAKU CO., LTD.



薬価基準収載
選択的尿酸再吸収阻害薬—高尿酸血症治療剤—
ユリス® 0.5mg
1mg
2mg
〔ドチヌラド〕 処方箋医薬品[※]
URECE® Tablets 0.5mg・1mg・2mg
注) 注意—医師等の処方箋により使用すること

※効能又は効果、用法及び用量、禁忌を含む
注意事項等情報等は電子添文をご参照ください。



販売<文献請求先及び問い合わせ先>
持田製薬株式会社
東京都新宿区四谷1丁目7番地
TEL 0120-189-522 (くすり相談窓口)

製造販売元<文献請求先及び問い合わせ先>

株式会社 富士薬品
〒330-0854 埼玉県さいたま市大宮区桜木町1-12-5 沢田ビル8階
TEL 048-644-3247 (カスタマーサービスセンター)

2025年1月作成 (N6)



Better Health, Brighter Future

タケダは、世界中の人々の健康と、輝かしい未来に貢献するために、グローバルな研究開発型のバイオ医薬品企業として、革新的な医薬品やワクチンを創出し続けます。

1781年の創業以来、受け継がれてきた価値観を大切に、常に患者さんに寄り添い、人々と信頼関係を築き、社会的評価を向上させ、事業を発展させることを日々の行動指針としています。

武田薬品工業株式会社
www.takeda.com/jp



UCBCares[®] てんかん 医療関係者向けサイト

てんかん診療に役立つ UCBCares[®] てんかんののご案内

Pick up!

話題の最新動画

複雑な脳波判読を全6回の短時間で学べる「てんかんの脳波のポイント」などのコンテンツをご用意しています。



てんかん情報を
更新中

WEBセミナー情報
製品情報
お役立ち資料
疾患情報

会員登録は
こちら



すべてのコンテンツを
視聴するには
会員登録が必要です

<https://hcp.ucbcares.jp/epilepsy>

UCBCares てんかん



 Inspired by patients.
Driven by science.

ユーシービージャパン株式会社

JP-DA-2500120_6 2025年3月作成



Johnson
& Johnson

Respect their Pride

がんであきらめることのない
未来のために

一人ひとりの「自分らしく生きる」に貢献します。

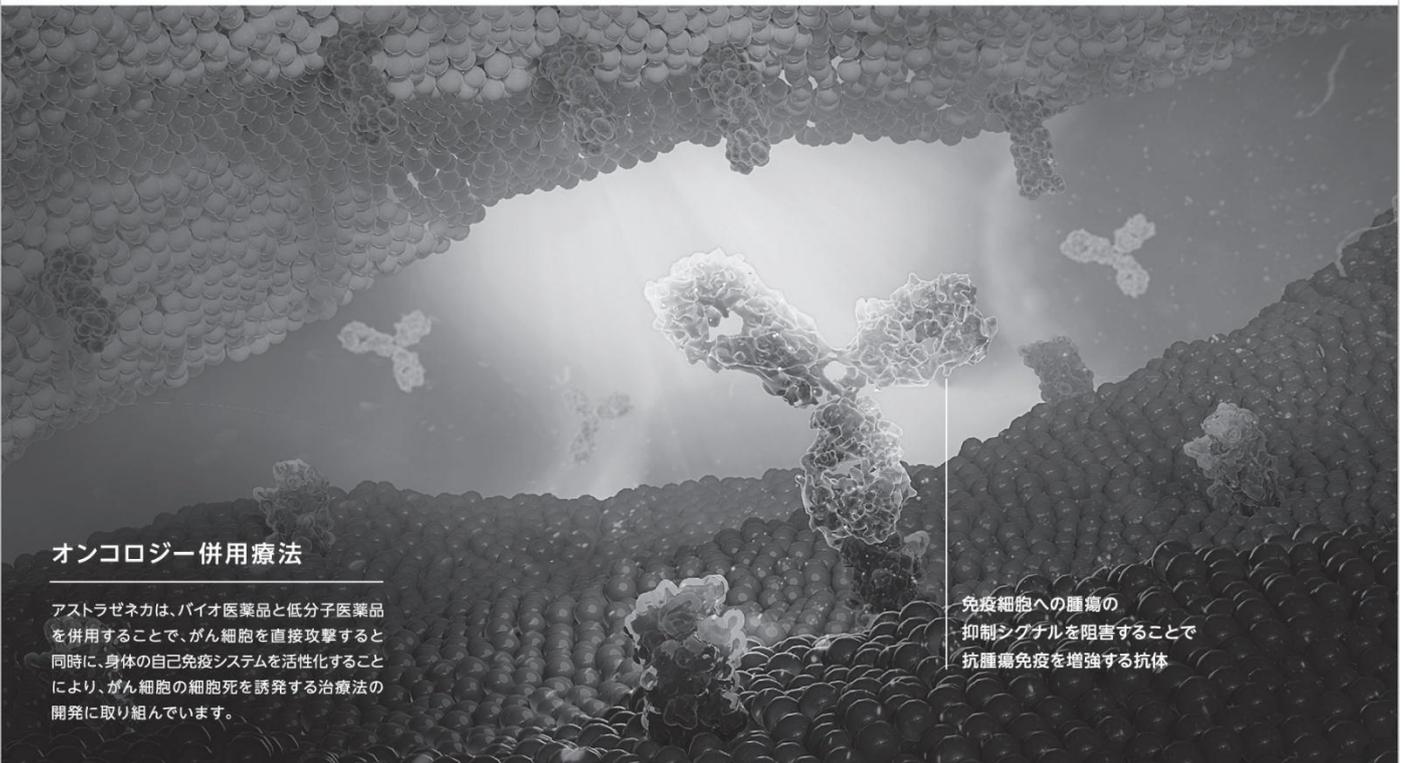
ヤンセンファーマ株式会社

〒101-0065 東京都千代田区西神田3-5-2

©Janssen Pharmaceutical K.K. 2024 2024年8月作成
※この写真はイメージであり、人物はモデルです。

AstraZeneca 

What science can do



オンコロジー併用療法

アストラゼネカは、バイオ医薬品と低分子医薬品を併用することで、がん細胞を直接攻撃すると同時に、身体の自己免疫システムを活性化することにより、がん細胞の細胞死を誘発する治療法の開発に取り組んでいます。

免疫細胞への腫瘍の抑制シグナルを阻害することで抗腫瘍免疫を増強する抗体

学会認定の「医療安全高度専門家」資格制度について

(2022年11月8日付)

(概要) 下記の全科目を受講し、当該認定試験に合格した日本医療安全推進学会の会員へ認定証を交付する。本制度は2022年11月より実施する。

(目的) 医療安全に特化した高度な資格制度によって医療安全高度専門家を育成し、医療安全文化をより高度にする。

(対象者) 臨床現場経験年数が10年以上有する全国の医師、歯科医師、看護師、薬剤師などの医療有資格者(事務職員は含まない)で、かつ日本医療安全推進学会の会員。

(受講科目) すべて必須科目。科目履修は医療安全概論から始めるのが望ましい。他の科目は順不同で構わない。ただし、同一科目名では基礎編⇒実践編の順とする。

(科目名)	(授業形式)	(実施日数)	認定試験の有無
医療安全概論 (基礎理論)	講義	連続する2日	無
医療安全基礎講座 (基本方法)	講義	連続する3日間	無
医療安全倫理・モラル研修会	講義	1日間	無
医療安全教育セミナー(実践編)	講義	連続する3日間	無
医療安全教育セミナー(ヒューマンファクター編)	講義/実習	連続する3日間	無
臨床安全コミュニケーター(基礎編)	講義/実習	連続する2日ないし3日間	有
臨床安全コミュニケーター(クライシスコミュニケーション編)	講義/実習	連続する2日間	有
チーム医療安全研修会	講義/実習	連続する2日間	有
医療事故調査セミナー	講義	連続する2日間	無
相談・コーチング・コンサルテーション研修会	講義/実習	連続する2日間	有
リスク分析・調査	講義/実習	連続する2日間	有
リスク情報安全学	講義	連続する2日間	無
感染症の医療安全	講義	連続する2日間	無
甚大災害の医療安全	講義	連続する2日間	無

- ・全科目を国際医療リスクマネジメント学会が主催し、日本医療安全推進学会は後援団体。
- ・学会認定の「医療安全高度専門家」資格を必要としない方は単一の科目を受講し、認定試験のある科目ではその受験ができる。

(学会認定「医療安全高度専門家」資格の取得要件)

- ・資格申請者は日本医療安全推進学会の会員であること。
- ・学会認定の「医療安全高度専門家」資格制度の全科目を5年以内に取得すること。
- ・学会認定の「医療安全高度専門家」資格を希望する者は、すべての認定合格証をそろえて日本医療安全推進学会へ申請する。
- ・認定試験を行わない科目では、その受講終了証を以て認定合格書証の代わりとする。
- ・本資格申請時に申請費(1万円)を納付する。
- ・合格者へ資格認定書を発行します。

(学会認定「医療安全高度専門家」資格の再認定の取得要件)

- ・資格認定の有効期間は資格取得後の5年間とする。
- ・再認定を希望する場合は、過去5年間にわたる日本医療安全推進学会学術総会参加証の写しを提出し、かつ活動歴の概要レポートを提出する。
- ・再認定の際には新たな科目を追加する場合がある。
- ・再認定時には申請費(1万円)を納付する。
- ・合格者へ資格認定書を発行します。

学会認定の「医薬品安全高度専門家」資格制度について

(2022年11月8日付)

本資格は医薬品安全管理業務を含みます。

(概要) 下記の全科目を受講し、当該認定試験に合格した日本医療安全推進学会の会員へ認定証を交付する。
本制度は2022年11月より実施する。

(目的) 医薬品安全に特化した高度な資格制度によって医薬品安全高度専門家を育成し、医療安全文化をより高度にする。

(対象者) 臨床現場経験年数が10年以上有する全国の薬剤師で、かつ日本医療安全推進学会の会員。

(受講科目)

(科目名)	(授業形式)	(実施日数)	認定試験の有無	備考
医療安全概論	講義	連続する2日間	無	
医療安全基礎講座	講義	連続する3日間	無	
医薬品安全管理研修会	講義	連続する2日間	無	
医療安全教育セミナー (事故原因分析編: ヒューマンファクターと リスクアセスメント)	講義/実習	連続する3日間	無	
臨床安全コミュニケーター(基礎編)	講義/実習	連続する2日間	有	
臨床安全コミュニケーター(クライシス編)	講義/実習	連続する2日間	有	
医療安全のための相談・コンサルテーション 講習会	講義/実習	連続する2日間	有	
医療安全情報処理教育セミナー	講義/実習	連続する2日間	有	
チーム医療研修会	講義/実習	連続する2日間	有	

・全科目を国際医療リスクマネジメント学会が主催し、日本医療安全推進学会は後援団体。

(学会認定の「医薬品安全高度専門家」資格の取得要件)

- ・臨床現場経験年数が10年以上有することを証明する書類を提出すること。
- ・資格申請者は日本医療安全推進学会の会員であること。
- ・学会認定の「医薬品安全高度専門家」資格制度の全科目を4年以内に取得すること。
- ・学会認定の「医薬品安全高度専門家」資格を希望する者は、すべての認定合格証をそろえて日本医療安全推進学会へ申請する。
- ・認定試験を行わない科目では、その受講終了証を以て認定合格書証の代わりとする。
- ・本資格申請時に申請費(1万円)を納付する。
- ・合格者へ資格認定書を発行します。

(学会認定の「医薬品安全高度専門家」資格の取得要件)

- ・資格認定の有効期間は資格取得後の5年間とする。
- ・再認定を希望する場合は、過去5年間にわたる日本医療安全推進学会学術総会参加証の写しを提出し、かつ医薬品安全活動歴の概要レポートを提出する。
- ・再認定には、過去5年間にわたる日本医療安全推進学会学術総会参加証の写しを提出し、かつ医療安全活動歴の概要レポートを提出する。
- ・再認定の際には新たな科目を追加する場合がある。
- ・再認定時には申請費(1万円)を納付する。
- ・合格者へ資格認定書を発行します。

学会認定の「看護安全高度専門家」資格制度について

(2022年11月8日付)

本資格は看護安全管理業務を含みます。

(概要) 下記の全科目を受講し、当該認定試験に合格した日本医療安全推進学会の会員へ認定証を交付する。
本制度は2018年4月より実施する。

(目的) 看護安全に特化した高度な資格制度によって看護安全高度専門家を育成し、医療安全文化をより高度にする。

(対象者) 臨床現場経験年数が5年以上有する全国の看護師で、かつ日本医療安全推進学会の会員。

(受講科目) すべて必須科目。科目履修は順不同で構わない。

(科目名)	(授業形式)	(実施日数)	認定試験の有無	備考
医療安全概論	講義	連続する2日間	無	
医療安全基礎講座	講義	連続する3日間	無	
看護安全推進研修会	講義	1日	無	
医療安全倫理・モラル研修会	講義	1日	無	
臨床安全コミュニケーター(基礎編)	講義/実習	連続する2日間	有	
臨床安全コミュニケーター (クライシスコミュニケーション編)	講義/実習	連続する2日間	有	
医療安全のための相談・コンサルテーション講習会	講義/実習	連続する2日間	有	
チーム医療安全研修会	講義/実習	連続する2日間	有	

- ・全科目を国際医療リスクマネジメント学会が主催し、日本医療安全推進学会は後援団体。
- ・学会認定の「看護安全高度専門家」資格を必要としない方は単一の科目を受講し、認定試験のある科目ではその受験ができる。

(学会認定の「看護安全高度専門家」資格の取得要件)

- ・臨床現場経験年数が5年以上有することを証明する医療機関発行の文書を提出すること。
- ・資格申請者は日本医療安全推進学会の会員であること。
- ・すべての科目でそれぞれの認定試験を受験し、合格していること。
- ・学会認定の「看護安全高度専門家」資格制度の全科目を4年以内に取得していること。
- ・学会認定の「看護安全高度専門家」資格を希望する者は、すべての認定合格証をそろえて日本医療安全推進学会へ申請する。
- ・認定試験を行わない科目では、その受講終了証を以て認定合格書証の代わりとする。
- ・本資格申請時に申請費(1万円)を納付する。
- ・合格者へ資格認定書を発行します。

(学会認定の「看護安全高度専門家」資格の再認定の取得要件)

- ・資格認定の有効期間は資格取得後の4年間とする。
- ・再認定を希望する場合は、過去4年間にわたる日本医療安全推進学会学術総会参加証の写しを提出し、かつ看護安全活動歴の概要レポートを提出する。
- ・再認定には、過去4年間日本医療安全推進学会の会員である必要がある。
- ・再認定の際には新たな科目を追加する場合がある。
- ・再認定時には申請費(1万円)を納付する。
- ・合格者へ資格認定書を発行します。

各資格の申請方法

A) 申請に必要な資料書類(原本の場合はその写し)を用意する。

B) 申請費を下記口座へ振り込む。

銀行支店名: みずほ銀行 本郷支店 (075)
ニホンイリョウアンゼンスイシニングカクイ
口座名義: 日本医療安全推進学会
番号: 普通 4203412

C) A)の資料と B)の振込控えを以下へ郵送する。

〒113-0033 東京都文京区本郷 4-7-12-102
一般社団法人国際医療安全推進機構内
日本医療安全推進学会

以上

医療安全推進

日本医療安全推進学会機関誌

(印字版) ISSN 2758-4402

<https://mspo.org/jsmsp/journal/index.html>

発行: 日本医療安全推進学会

「医療安全推進」編集事務局

日本医療安全推進学会本部内

(〒) 113-0033 東京都文京区本郷 4-7-12-102

(電子メール) jsmspjournal@mspo.org

機関誌「医療安全推進」刊行案内

一般社団法人医療安全推進機構(MSP0)は医療安全推進に関する諸課題の解決のために「日本医療安全推進学会」を設立しました。その学会機関誌として「医療安全推進」を刊行し、学会員の研究論文の蓄積を以て医療に貢献します。様々な関連分野の専門家から構成される編集委員を構成し、学会内部に蓄積します。

編集の方針

- 1) 投稿論文は査読審査の対象となります。
- 2) 発行は電子版のみにより行います。
- 3) 日本語論文のみを掲載します。英語論文の場合は国際医療リスクマネジメント学会機関誌「Journal of Medical Safety」への投稿をお願いいたします。
- 4) 氏名、所属、住所および英文の抄録を付けてください。

投稿規定

「医療安全推進」は日本医療安全推進学会における研究報告等を受け付ける。

その投稿は以下の規定による。

1. 投稿原稿は総説、原著論文、短報、その他とし、区分はつぎのものとする。
 - 1) 総説：医療安全推進に関する諸問題を客観的な資料・考察に基づいて広い視点から論じたもの。
 - 2) 原著論文：独創性のある理論的または実証的な研究で、完成度の高いもの。
 - 3) 短報：独創性、緊急性のある萌芽的研究で、発展性の期待できる研究を手短にまとめたもの。短報は電子版「医療安全推進」誌にのみ掲載されます。
 - 4) その他：症例報告（医療事故の治療経験など）・各医療機関でのベストプラクティス・トピックス・意見など、編集委員会で必要性を認めたもの。
2. 「医療安全推進」の原稿は邦文ないし英文とする。
3. 投稿論文は未発表・未掲載のものとする。他雑誌に掲載されたものを重複して投稿してはならない
4. ヒトおよび動物を対象にした研究論文は、1975年のヘルシンキ宣言（1989年改訂）の方針に従い、必要な手続きを踏まなければならない。ヘルシンキ宣言（1964年、1975年、1983年、2003年改訂）、臨床研究に関する倫理指針（厚生労働省、平成20年7月31日改正）、疫学研究に関する倫理指針（厚生労働省、文部科学省、平成20年12月改訂）、医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取扱いのためのガイドラインなどの倫理的指針に従い、必要なものについては施設の倫理委員会、Institutional review board (IRB)の承認を得、その由を論文に記載する。さらに、「個人情報の保護に関する法律」（平成17年4月）などその時代に遵守すべき法令・省令を遵守する。症例報告などのプライバシー保護に関しては外科系学会協議会による「症例報告を含む医学論文及び学会研究会発表における患者プライバシー保護に関する指針」に従うこと。動物を用いた研究では、各施設の動物委員会などが定めた基準に従い慈愛深く取り扱い、このことを記載しなくてはならない。臨床試験は、臨床試験登録公開制度システム（UMIN-CTR など）に登録する。ランダム化比較試験（randomized controlled trial; RCT）では、

CONSORT 声明に従う。また、科学研究として公平性・信頼性を確保するため、企業等との利益相反について明確にする必要がある。論文採用決定後は、「学会誌 (Palliative Care Research) 論文発表者の報告事項」に定める事項について「利益相反事項届出書 (学会誌発表者用)」の提出をしなければならない。

1. 投稿原稿の査読、採否および掲載順序などは編集委員会において決定し、編集委員長の名で著者に連絡する。
2. 原則として、投稿原稿は別に定める「執筆要項」に従った原稿によるものとし、和文原稿では英文の抄録ならびに英・和それぞれ5語前後のキーワードを原稿につける。
3. 投稿原稿は e-mail にて「医療安全推進」編集事務局に送付する。その際には、他雑誌に未発表・未投稿である旨を宣言した書面を沿えて、下記宛に送る。また、書面に総説、原著、短報、その他のいずれの категорияとして投稿するのかを明記すること。別途印刷物を編集事務局に2部送付する。
4. 掲載された原稿の著作権は日本医療安全推進学会に属する。
但し、執筆者が使用する場合本会の許諾を必要としない。

投稿先

「医療安全推進」編集事務局

日本医療安全推進学会本部内

(〒) 113-0033 東京都文京区本郷 4-7-12-102

(電子メール) jmspjjournal@mspo.org

原稿の執筆要領

1. 原稿はワープロソフトを用い、横書き、新かな使い、常用漢字の楷書で記載する。句読点および括弧は一字とする。投稿原稿の枚数は図表などを含めて刷り上がり8頁以内（1頁約2000字）とする。頁数を超過した場合には、超過分の費用を徴収する。ワープロソフトはWord等のWindows系のソフト、あるいはPDFファイルで送付すること。
2. 外国語の人名、地名、学名はタイプまたはブロック体で記載する。ただし、カタカナでもよい。
3. 和文抄録（400字以内）及び英文抄録（400語以内）を作成する。また、氏名、所属、連絡先を英文でも記載する。原著論文の場合には目的、対象と方法、結果、考察および結論として見出しをつけて記載すること。
4. 原稿の1頁目には、表題、著者名、所属機関名、別刷請求先、連絡先住所、表および図の数などを記載すること。
5. 図表は必要最小限にとどめること。図表は不都合なときには、使用ソフトなどについて編集委員会がその都度指示する。図説明文は別頁とする。
6. 本雑誌の単位符号は原則としてSI単位を用いる。（JISZ8203参照）
例：1）長さ、面積、体積 km, m, cm, mm, μ m, nm（特殊な分野では \AA ）
7. 引用文献は引用順とし、末尾文献表の番号を両括弧数字で記す。
雑誌の場合、全著者名.表題.雑誌名.年号：巻数：頁一頁、の順に記す。
1）田島静,千々和勝己. 初夏に某小学校で発生した小型球形ウイルス（SRSV）による集団食中毒事例. 日本公衆衛生雑誌 2003：50：225-233.
2）Adamson J, Hunt K, Ebrahim S. Socioeconomic position, occupational exposures, and gender: the relation with locomotor disability in early old age. J Epidemiol Community Health 2003;57: 453-455.
単行本の場合、編・著者名. 書籍名. 所在地：発行所, 発行年：頁. の順に記す。
引用頁は全般的な引用の場合には省略することができる。
3）川上剛,藤本瞭一,矢野友三郎. ISO 労働安全・衛生マネジメント規格. 東京：日刊工業新聞社,1998.
4）Detels R, McEwen J, Beaglehole R, Tanaka H. Oxford Textbook of Public Health. The Scope of Public Health. Fourth Edition. Oxford: Oxford University Press, 2002.
5）川村治子. リスクマネジメント. 高野健人他編. 社会医学事典. 東京：朝倉書店. 2002:98-99.
6）Detels R, Breslow. Current scope and concerns in public health. In: Detels R, McEwen J, Beaglehole R, Tanaka H. Oxford Textbook of Public Health. The Scope of Public Health. Fourth Edition. Oxford: Oxford University Press, 2002: 3-20.
8. 本文の最後に、別紙「利益に関する開示文書」に従って利益相反に関する開示事項を記載する。

「医療安全推進」編集委員会

(2025年1月8日付)

編集長

四柳 宏 (東京大学医科学研究所先端医療研究センター教授)

編集委員 (五十音順)

井上 都之 (岩手県立大学 看護学部 准教授)

工藤 篤 (東京科学大学病院 医療安全管理部)

肥田 圭介 (岩手医科大学附属病院医療安全管理部)

田仲 浩平 (東京工科大学医療保健学部臨床工学科教授)

富田 隆 (国際医療福祉大学三田病院薬剤部)

中村 京太 (横浜市立大学附属市民総合医療センター医療の質・安全管理部)

(別紙) 利益に関する開示文書

医療安全推進機構会学会誌「医療安全推進」における利益相反の開示すべき項目

1. 産学連携活動に係る受け入れ額が、1企業あたり年間200万円以上(所属機関からの間接経費が差し引かれる前の金額)の場合
2. コンサルタント、指導、講演、給与としての個人収益が、1企業あたり年間100万円以上(税金や源泉徴収額を引く前の金額)の場合
3. 産学連携活動に係る個人収益(公開・未公開を問わず、当該企業の株式等の出資・取得・保有及び売却・譲渡、ストックオプションの権利譲受、もしくは、役員報酬、特許権使用料等)が1企業あたり年間100万円以上あった場合(但し、投資信託、もしくは、当該個人によって管理・制御できない多角的なファンドにおいて資金運用される場合を除く)
4. 上記1～3のいずれかに該当する企業に一親等の親族が現在勤務している場合
該当しない場合には「医療安全推進機構会学会誌「医療安全推進」の定める利益相反に関する開示事項はありません。」と論文の末尾に記入する。

該当する場合には「医療安全推進機構会学会誌「医療安全推進」の定める利益相反に関する開示事項に則り開示します、(企業名)から(〇〇円).」と論文の末尾に記入する。

なお、個人収益の場合は、前年の1月1日から12月31日までとする。ただし、寄付金や企業からの受託等、産学連携活動に係る研究の場合は、前年4月1日から本年3月31日までの期間でも可とする。も可とする。

以上

日本医療安全推進学会のホームページ

<https://mspo.org/jsmsp/>

第2回日本医療安全推進学会学術総会

日本医療安全推進学会

一般社団法人国際医療安全推進機構内

〒113-0033 東京都文京区本郷 4-7-12-102

TEL: 03-6801-6922 FAX: 03-6801-6987

Email: jsmspoffice@mspo.org